



交流を通して育つ心

准校長 小田 和宏

日増しに寒さがつのる季節となり、いつの間にか今年も残り少なくなりました。皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。また、先日の小学部「きりっ子フェスティバル」では、たくさんの方にご来校いただき、これまでの学習の成果を見ていただきました。学んだことをまとめ、発信する力を高める場となりました。中学部では、7・8年生がそれぞれ職場体験・福祉体験を終え、社会の中での学びを経験しました。ご協力をいただいた地域・関係者の皆様、ありがとうございました。

さて、今、小学部図工室の前には、1年生から9年生までの縦割り班で意見を出し合った「ふわふわ言葉」が掲示されています。これは、夏に行われた横浜子ども会議での意見交換を受けて、児童会・生徒会で取組を進めたものです。各班で記入した用紙をまとめ、中学部美術部の生徒が作品に仕上げました。“がんばったね”“ありがとう”“だいじょうぶだよ”など、心が温かくなる言葉がならんでいます。



“ふわふわ言葉を出し合う活動”に取り組んだのは、本校の交流活動「きりたま（霧魂）タイム」です。そこでは、折り鶴づくりも行いました。一枚一枚の折り紙に平和への願いを込めて、丁寧に折っていきました。上級生が優しく折り方を教える姿、上級生の手元をじっと見つめる低学年の児童の姿など、この活動を通して温かい交流が生まれ、心の育ちにつながっているのだと感じられる時間でした。

今年度の「全国中学生人権作文コンテスト横浜市大会」への応募作品の中で、最優秀賞の一つになった作品の中に、「思い」と「想い」について書かれている文章を見つけました。“「思う」は、自分の意見や考え、つまり「自分の脳の中で感じる心」という意味があり、「想う」は、他人のこと、つまり「相手を想う心」という意味があります。”と綴った上で、「人の気持ちを考えて行動し、人を想える人になりたいです。」と続けていました。霧が丘で行っている交流活動も、そうした「相手を想う心」が育つ取組だと改めて感じました。

天気予報では連日強い寒気の影響を伝え、厳しい寒さが続いています。子どもたちは、長期休業に入りますが、元気で楽しい年末年始を過ごせるよう願っています。今年も保護者・地域の皆様に多くの場面でご支援・ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。